

NT

NISSEKI TOKYO

2016
Summer
Vol.10

熊本地震災害と赤十字

ジミチな活動。



第52回献血運動推進全国大会「標語」
献血運動推進「標語」「ポスターデザイン」コンクール 標語の部 最優秀賞
工学院大学 鈴木 穠世花



vol.10
summer

Contents

04 平成27年度 活動資金使途報告

05 れっどくろす News&Topics

特集

08 ジミチな活動。
ー熊本地震災害と赤十字ー

新連載

16 写真家・菅原一剛の“赤十字への道”

20 NT information

21 RED CROSS HOSPITAL

武蔵野赤十字病院／大森赤十字病院／葛飾赤十字産院

24 Blood Program NEWS

25 world ー未来が見えない難民たちの不安を感じたー

26 行け!OLレポーター オカモト★ 日赤とつげきレポ ー5月8日世界赤十字デーin表参道♥ー

29 活動資金協力者（社）・団体のご紹介

30 Rediscovery TOKYO ー第3回 新宿区・神楽坂ー



Thank you for
your support.

平成 27 年度
東京都支部

活動資金 使途報告

皆さまのご協力により、「いのちを守り、救う活動」が広がっています。

平成 28 年 6 月 10 日（金）、日本赤十字社東京都支部において平成 28 年度第 1 回評議員会を開催しました。副支部長 安藤 立美 東京都副知事が議長を務め、評議員、監査委員など 77 人が出席して、平成 27 年度事業報告（案）・歳入歳出決算（案）・監査報告の議案を審議し、全議案とも原案どおり承認されました。平成 27 年度活動資金の使途は以下のとおりです。



● 災害時の救護活動

disaster relief

平成 27 年 9 月に発生した台風 18 号による大雨等災害により被害を受けた地域で、医療救護活動をはじめ、地元の診療支援やこころのケアなど、ニーズに沿った活動を展開しました。



● 訓練 / セミナー

training & seminar

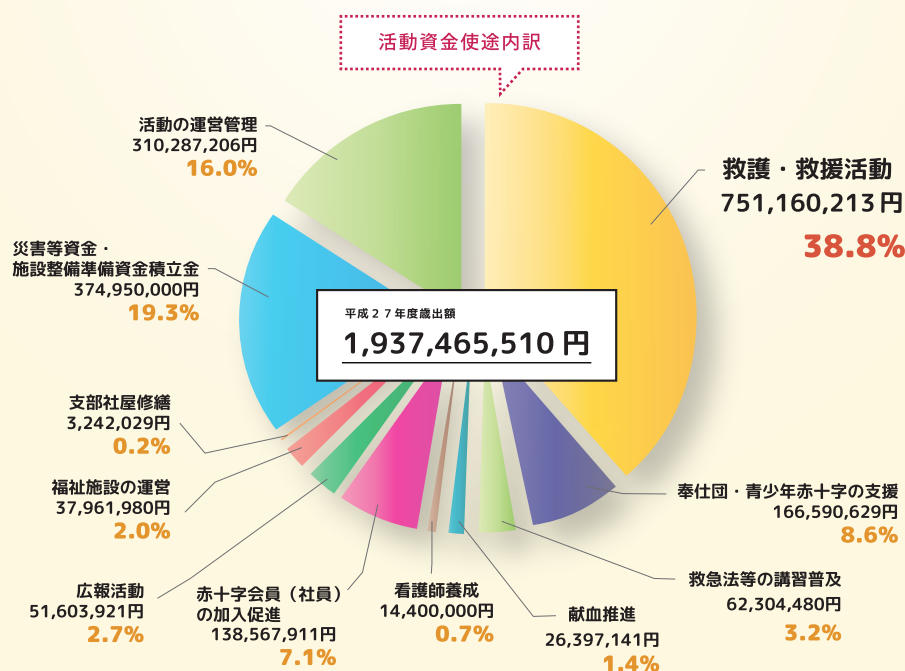
災害による被害を最小限にとどめるための減災という考え方を普及し、自助、共助の強化を図るとともに、自衛隊など、他の団体と連携した訓練を実施（参加）して、公助の強化と効率化にも注力しています。



● 青少年やボランティアの取り組み

JRC & RC volunteer

災害時に自分を守ること、そして時には周りの人を助ける役割も期待される子どもたち。普段の生活の中で防災・減災の意識を高めるためにさまざまな学習プログラムを実施しています。また、地域を支えるボランティアによる非常時の食事にかかる活動なども活発に行われています。



※ 詳しくは、東京都支部ホームページ <http://www.tokyo.jrc.or.jp/> の「決算報告」をご覧ください。

青 少年赤十字メンバーが活躍 上野動物園迷子ボランティア



東京都支部所属の青少年赤十字メンバーが、ゴールデンウィークの上野動物園で迷子相談ボランティアとして活動しました。

この活動は、上野動物園からの依頼を受けて行われているもので、「迷子札」の配布と「迷子が発生した場合の検索・保護」を主な活動としています。今年は8日間の活動で、のべ250人以上の青少年赤十字メンバーが参加しました。

開設した迷子相談所を訪れたたくさんの迷子札を求める方に対応し、また、多い日では40人の迷子を検索・保護するなど、連休の動物園の安全に貢献しました。参加したメンバーは、「はぐれてしまった子が保護者と再会したときの笑顔を見てやりがいを感じた」などと語りました。

この活動を機に青少年赤十字メンバーの活動の場が広がることを願っています。



東 京都支部所属の奉仕団が 続々と結団しています

5月23日(月)に、東京都内で15番目の学生奉仕団、東京聖栄大学学生赤十字奉仕団が結団しました。

結団式にあたって梅川委員長は「部員ともども、積極的に活動をしていきたいです」と決意を述べました。今後、健康・栄養・食品に関する専門的知識と技術・技能を身につける大学の特徴を活かしたボランティア活動を展開していきます。

また、6月12日(日)には東京都支部1階



の「NT Lounge」にて、東京都赤十字写真奉仕団の結団式が行われました。

同奉仕団は、日赤の契約カメラマンである菅原一剛氏が主宰されている「東京観光写真倶楽部(P.31参照)」が母体となって発足しました。

結団式で挨拶した岡本委員長は、「赤十字のことをより一層学びながら、一般の視線を忘れることなく活動をしていきたい」と語りました。

写真奉仕団結団に向けた思いなど詳しくは、「写真家・菅原一剛の“赤十字への道”(P.16～)」をご覧ください。

し あわせの花「すずらん」 ANAグループから今年も贈呈



6月2日(木)、大森赤十字病院でANAグループからすずらのしおりと花の贈呈式が行われました。1956(昭和31)年から、ANAグループのご厚意により全国の病院・福祉施設などの赤十字施設にANAグループ社員手書きのメッセージが入った「すずらのしおり」を寄贈していただいています。式典の後、大森赤十字病院では、入院患者さんへすずらの花としおりが手渡されました。

い ざという時のために、 不斷の努力を続けています



東京都支部では、赤十字の職員として苦しんでいる人を救うための知識と技術を修得すべきものとして、毎年複数回の職員向け救急法を開講しています。

5月末に開催した今回は初めての試みとして、歩行者や来客からも見える場所である「NT Lounge」で実施。参加した職員は「職員として当然の学習をしていますから」と、特に気にすることもなく、真剣に実技に取り組んでいました。

都内各地で赤十字をPR 病産院赤十字フェスタ開催

赤十字運動月間では、東京都病産院でも赤十字のPRと地域の方々との交流を目的にしてイベントを開催しています。

今年は、5月21日(土)に葛飾赤十字産院、6月4日(土)に大森赤十字病院でイベントが開催されました。

参加者からは、「いろいろな経験ができた!」「毎年子どもが楽しんでいる」「ボランティアの対応が素晴らしかった」「大森日赤の動物ふれあいコーナーは続けてほしい」などうれしい感想が。

これからもたくさんの方の笑顔に出会えるようイベントを開催していきます。

-
- 1：ハートラちゃんとけんけつちゃんはいつも大人気
 - 2：たくさんのボランティアがイベントを支えています
 - 3：ご当地ヒーローも登場して赤十字を応援
 - 4：ドキドキの消火器体験。うまくできたかな？



1



3



2



4



新大久保エリアでは、新大久保商店街振興組合のご協力のもと、赤十字フラッグの掲出やポスターの掲示などのご協力をいただきました。

また同時期から、商店街の各店舗で募金箱設置の協力も始まっています。(6月13日時点で29店舗に設置)

赤十字運動月間キャンペーン 新大久保と表参道で展開

5月の赤十字運動月間では、東京都支部がある新大久保と原宿・表参道に赤十字フラッグを掲出しました(原宿・表参道では2009年から継続)。地域の方々のご協力のもとで赤十字をPRしました。



原宿・表参道エリアでは、原宿表参道櫺会商店街振興組合のご協力のもと、赤十字フラッグの掲出中、イベントの開催や募金箱の設置、ライトアップやCM放送など、さまざまなご協力をいただきました。

京橋千疋屋表参道原宿店からは、募金箱やミニフラッグの設置、オリジナルコースターの活用とともに、オリジナルメニュー「ハートラちゃんミルクプリン」を提案していただきました。若い人の感性を重視して試作を重ねられたそうです。(←提案者の齊藤 菜さん)



※原宿表参道キャンペーンについてはP.26「OLレポーターオカモト☆日赤とつげきレポ」も参照ください。

夏のイベント情報！

丸の内キッズジャンボリー 2016



「献血の血液ってどうなるの?」という疑問に答えるお仕事体験イベントです。白衣を着て参加するワークショップ「つながるいのち いのちのち」で楽しみながら学んでください。

日時：2016年8月16日(火)～18日(木)
会場：東京国際フォーラム
対象：小学4年～6年
定員：各回36人(1日4回)

詳しくは丸の内キッズジャンボリーHPへ

災害時、「助けられる人」に。 災害学習プログラムの紹介



4月28日(木)に文京区立第九中学校の2年生を対象に実施したプログラムでは、約100人の生徒たちが三角巾やビニール袋を使った応急手当を体験しました。

応急手当を体験した生徒からは、「三角巾1枚で、止血などさまざまな処置ができることを知った」「身近にある物でも工夫を凝らせば人を助けられることが分かった」などの感想がありました。また、「中学生になれば、災害時に周囲の人を助けることができます」との講師の話に対し、「自分はもう人を助けられる年齢なんだと自覚した」「周囲の人を助けられるよう災害時は周りをよく見て行動したい」との声も聞くことができました。

※災害学習プログラムについて詳しくは、日赤東京都支部HPをご覧ください。

東京都支部では、これまでの災害救護活動で培ってきた経験や技術を教育現場の防災教育に役立てていただこうと、都内の小・中・高・特別支援学校へ「災害学習プログラム」の講師を派遣しています。



NEW OPEN!

新宿区大久保にある、日本赤十字社東京都支部の1階スペースが「NT Lounge」としてニューオープン。「世界の人びと」をテーマにした本をセレクトし、リラックススペースとしてご利用いただけるほか、救急法講習会の実施や広報誌『NT』と連動した展示やイベントなども開催予定です。

この空間で赤十字の思いや活動の一端に触れていただき、すこしでも身近に感じていただければ幸いです。最新情報はフェイスブックに順次更新します。皆さまのお越しを、お待ちしております！



開館日：平日 9:00～17:30

場所：日本赤十字社東京都支部1階(新宿区大久保1-2-15)

副都心線「東新宿」駅下車 B1出口0分

都営大江戸線「東新宿」駅下車 A1出口徒歩3分

JR山手線「新大久保」駅下車 徒歩13分

Facebook：www.facebook.com/redcrosstokyo



ジミチな活動。

熊本地震災害と赤十字

2016年4月14日、熊本県を中心にM6.5、震度7の大地震が発生。その後も大きな余震が続き、避難した人は長期間、不安な思いを抱えて過ごしました。余震による建物倒壊の恐れから、車の中で過ごした避難者も。避難生活が長くなるにつれて、災害発生直後の救護とは違った活動が求められることになります。今回は、テレビなどで目にすることの多い医療救護活動とあわせて行われる**赤十字のジミチな活動**を紹介。いずれも、災害で被害を受けた人たちを守るために欠かせない「**活動**」です。



3 長引く避難生活 — 避難所の環境を守る —

発災から続く余震により、被災された方々は長期間の車中泊や避難所での生活を余儀なくされ、それによって体調を崩す人も。今回の災害では感染症にかかる人も出るなど、避難所の衛生管理が重要な課題となりました。



発災後3週間頃から、避難者数は減らず横ばい。現在も多くの人々が避難生活を続けています※。長期化する避難生活に対して必要な支援は何か。災害発生直後だけでなくその先まで、被災された方々に必要とされる息の長い支援を継続します。

※ 6月5日現在 避難者7,007人



4/17 救援物資の搬送で力を発揮する学生ボランティア



4/17 全国の救護班が熊本県支部に集結。東日本大震災時に支援を受けた宮城県石巻市赤十字病院も駆けつけた



2 ボランティアも活動を開始 — 現場のニーズを探る —

地震発生直後から各地でのニーズ調査を実施。DMAT（災害派遣医療チーム）など他機関との連携も図られます。また、本震の翌日には青年赤十字奉仕団員（学生ボランティア）が中心となって熊本県支部内にボランティアセンターを設立。混乱のなか、他県から来た救護班のナビゲーション、救援物資の搬送、避難所でのニーズ調査などを行いました。現場の支援にはたくさんのボランティアの力が欠かせません。

1 地震発生直後、災害医療体制へ — いのちを救う —

4月14日、マグニチュード6.5、震度7の地震が発生。さらに、翌々日の16日には再び震度7の地震（本震）が。熊本赤十字病院では、ただちに病院を災害救護モードに切り替え、地震による患者さんを一手に引き受けました。また、患者さんを受け入れるだけでなく、病院から熊本県内の避難所等に救護班を派遣し、情報収集と救護に努めました。災害発生直後に求められるのは「いのちを救う」ための活動。そのために全国から日赤救護班が集結し、昼夜を問わず救護活動を続けました。



4/15 0:54 深夜も救急患者が次々に運ばれてくる



4/16 5:00 熊本赤十字病院に緊急搬送されてきた女の子



4/15 0:59 熊本赤十字病院を出発する特殊医療救護車両



4/16 13:36 益城町(ましきまち)の救護所で脱水症状の処置を受ける子どもと、寄り添うお母さん

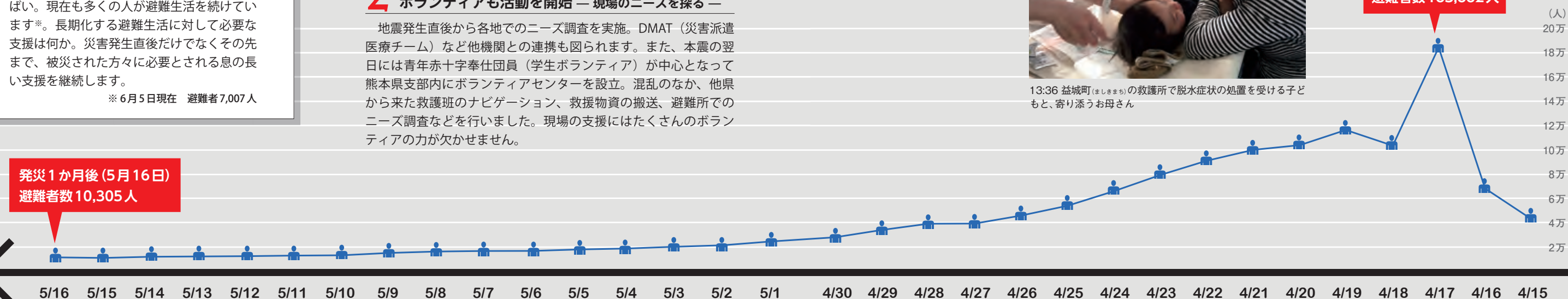
地震発生からの1か月 どんどん変わる 現場のニーズ

長期間にわたって強い余震が続いた、今回の熊本地震災害。ピーク時には、東日本大震災の時より多い約18万人が避難しました※。発災から現在まで、刻々と変わる現場のニーズ。それを正確に把握し、その時必要な支援をしていくことが重要です。

※避難者（ピーク時）東日本大震災：133,454人
熊本地震：183,882人

ピーク時(4月17日)
避難者数 183,882人

発災1か月間の避難者数の推移



case 1

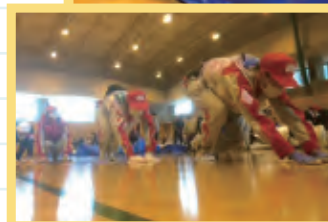
体育館で、大掃除？

避難所となった体育館の中でボランティアと一緒にシートを広げる救護職員たち。何をやっているの？と思いきや…

地震から約1週間後、避難所で感染症が発生。たくさんの方が過ごす避難所では、感染が一気に広がりやすいため、体調不良を訴える方々の巡回診療とあわせて避難所の清掃活動も行いました。避難所で過ごす方の健康を守るためのサポートも、今回の活動のひとつです。



南阿蘇村立南阿蘇中学校体育館で
避難所の清掃を行う救護職員



case 2

水道管だけの手洗い場？

感染症の発生から、その予防対策が避難所運営の大きな課題に。写真は、開発途上国など海外での救援活動の経験豊かな熊本赤十字病院が設置した仮設手洗い場。これにより、トイレ使用後の手洗いを徹底することができました。



南阿蘇村立南阿蘇中学校の避難所に
設置した手洗い場の設備



息の長い支援とは？ 避難所でのジミチな活動

長引く避難生活の中では、地震発生直後とは異なる問題がたくさん発生します。一見、何をやっているんだろう？と思う活動にも、実は、避難所での生活を守るために必要な活動があります。熊本地震災害での実際の写真と一緒に、今回のジミチな活動を紹介します。

case 5

何のドアの設置中？

避難所生活ではプライバシーの確保ができないなど、さまざまな問題が。そこで避難所でもプライベート空間が持てるよう、今回ボックス型の「簡易更衣室」を設置しました。

授乳や着替え、屋外の遠いトイレに行くのが辛い高齢者のために簡易トイレをボックス内に設置するなど、さまざまな用途で使うことができます。

避難所で過ごしている女性からは、「お風呂に入る時の着替えに利用しています。更衣室があるのは、特に女性にはうれしいですね」と話してくれました。



御船町の御船スポーツセンターに設置された簡易更衣室



Side story

熊 本県西原村の保育園の避難所近くに救護所を立ち上げていたとき、ふらっと外に出てきた新野心こころちゃん(9歳)。話しかけた救護職員にたくさんのお話をしてくれました。「本が大好きで、春休みには図書館で200冊の本を読んだの。今は保育園にある本を読んでいるけれど、地震で図書館にも行けないので悲しいな」「避難所の天井がとても高くて、夜寝ているときに揺れるとこわい。今は車の中で寝てる」「小さいころからずっと一緒のはるちゃんには地震のあと一度も会えてない。心配だなあ」

避難所にいる人の話をじっくりと聞くと、そこでの生活が見えてきます。いまだに7,007人(6月5日現在)の避難者がいる今回の熊本地震災害。今後も日赤はこころのケア活動など、被災された人に寄り添い、支援を続けていきます。



case 3

一緒に持っているのは…？

救護職員と避難所の女性が手に持っているのはストッキング。車中泊や避難所で心配されているのが「エコノミークラス症候群」※です。その対策として有効なのが「弾性ストッキングの着用」。日赤では、避難所でエコノミークラス症候群に効果的な弾性ストッキングの履き方をマンツーマンで教えています。

正しい履き方かどうかで効果が全く違うため、一人ひとりと会話をしながらの普及活動が効果を高めます。

※長時間同じ姿勢でいることで脚に血栓ができ、そのことで最悪の場合死亡することもある病気



益城町総合体育館で実施した弾性ストッキングの履き方講座の様子



case 4

同じポーズで何しているの？

これは、避難所での健康体操教室のようす。避難所で暮らす方の中には、60歳以上の方や3歳以下のお子さんをお持ちのご夫婦もいますが、避難所での生活は運動不足になりがち。エコノミークラス症候群にかかったり、体力・筋力が落ちるのを防ぐため、日赤の理学療法士による指導のもと、体を動かしています。

時には笑い声も聞かれた健康体操。体操をしながら大きな声を出すなど、実はリフレッシュも大切なんです。



上益城町ホテルエミナースなどで開催された健康体操教室の様子



赤十字を知る。赤十字を伝える。

菅原
一剛
(写真家)

■ Profile
大阪芸術大学芸術学部写真学科卒業後、写真家・早崎治氏に師事。フランスにて広告写真を中心にフリーカメラマンとして活躍する。2007年に赤十字専属カメラマンとなり、バン格拉デシュやケニアの現場を撮影。2014年にはアンリー・デュナン※3の足跡から受けた想いを映した写真集『赤十字への道』を刊行した。

聞き手：NT編集部

湿板写真※1などを探求し、写真の古典技法と最新のデジタル技法を駆使して今までにない新しい写真をつくり出している写真家の菅原一剛さん。広報誌『NT』の人気コーナー「Rediscovery TOKYO」を担当している「東京観光写真倶楽部」※2も主宰されています。赤十字の活動にも賛同してくださっている菅原さんがゲストとともに赤十字を語り合う対談企画が今号よりスタート。記念すべき第1回目は、同倶楽部が母体となって6月12日に発足した東京都赤十字写真奉仕団から、岡本絵里子委員長をお招きしました。

※1 ガラスに薬剤を塗り、そこに像を写す技法のこと
※2 東京を<観光>しながら撮影することを目的として2005年に発足
※3 スイス人の実業家(1828～1910)で、赤十字の創始者



岡本
絵里子
(東京都赤十字
写真奉仕団委員長)

■ Profile
『東京観光写真倶楽部』発足時より事務局長を務める。映像ディレクター(現在お休み中)。ヨガ講師。東京都赤十字写真奉仕団の初代委員長に就任。

「再生」の現場に感動した
バン格拉デシュでの体験

――まずは菅原さんをご存知ない読者のために、菅原さんと赤十字の関わりについて教えてください。
菅原 日赤の広報特使である藤原紀香さんのポスター撮影を頼まれたのがきっかけです。2006年のことですね。その後、紀香さんと一緒に、サイクロンで大きな被害のあったバン格拉デシュを訪問したことがあって、そこで、人が人を助けて、それによって新しいものが生まれる現場を見たんです。それに心から感動しました。
僕はもともと報道カメラマンになりましたが、戦場が苦手で断念してしまいました。ただ、悲惨な現実を撮影するのが報道カメラマンだと思われがちだけれど、バン格拉デシュで「再生」の現場に立ち会ったことで、そのような事実を伝えていく写真であれば、僕にも撮れるのではないかと思います。

東京都赤十字写真奉仕団結成への思い



菅原さんと岡本さんが所属する東京観光写真倶楽部の撮影会にて。写真を撮ることを楽しみながら活動している様子が伝わってくる。

“オレを撮れよ”
少年に背中を押された

—— バングラデシュの写真は評判になりましたよね。とりわけ、水害の跡が生々しい教室に少年が立っている写真は印象的です。

菅原 実はあの時、紀香さんが先にあの教室を出て次の教室に行かれたので、慌ててほくも移動しようとしていたら、あの少年が立っていた。“オレを撮れよ”という感じで。背景の黒板には、洪水のときの水の跡が残っていた。カメラを構えたら、すっと腕組みをして見せたのです。写真でも、将来すごい大物になるような威厳を感じるでしょう？ でも、足は裸足。そのギャップも魅力だった。

この写真を見て、この国には必ず未来があるし、そのためにはきっと赤十字活動も必要だということをも身をもって感じるようになりました。

東日本大震災の経験も大きかったですね。それまで海外の被災地を訪れていたのが、自分の身近なところで大規模な災害が起きた。それに対しても、同じように、必ず未来があると信じて、そんなきつ

かけのようなものを撮影し続けています。

現場を知ること、
赤十字への見方が変わった

—— 岡本委員長は、赤十字にどんな印象をお持ちですか？

岡本 わたしは、これまで赤十字と関わったことがないんです。菅原さんから話を聞いているのでアッリー・デュナンくらいは知っているのですが、一般の方と同じくらしいの知識しかありません。

そのわたしの目から見た赤十字はというと、資金力のある、確固とした大きな組織。知名度がある。一方で、組織が大きすぎて意思決定などには時間がかかるのかなという印象も。でも、日頃菅原さんの活動を横で見えてきたり、今回、熊本地震の被災地での活動をフェイスブックなどを通じて知る中で、災害救護のノウハウや人々を組織する力、チーム力、経験値がある組織だということを実感しました。

—— 現場を知ること、印象が変わった？

岡本 そうですね。“赤十字って実はすごいんだな”と思いました。わたしの一般的な人は、現場に

菅原 赤十字への協力も、町会や自治会を通じてお願いすることは難しくなっている。それなのに、赤十字側には自分たちの活動をきちんと伝えきれていないという問題があるように思います。僕は、赤十字の真実の姿を写真を通して伝えていきたいし、実際にそう思い知ったからこそ、僕なりのやり方で伝えていくつもりです。

奉仕団員の間にも、赤十字の現場に参加して、そこで感じたことを伝えていってほしいと思っています。

岡本 実際に活動を見るのと見ないのでは、全然違いますからね。

菅原 赤十字の活動を知れば、普段こういう準備をしているから、いざという時に役に立っているということがわかんると思います。



わたしたちの日常生活に
不可欠な存在

行ったことなんてないから赤十字のことを知らない。だから、さまざまな活動の現場を見てきた人や赤十字のことを知っている人が、それを伝えることが大切なのかなと思います。

菅原 昔と違い、隣近所の助け合いが薄れている今の時代、赤十字って、水道や電気などのインフラや、あるいは消防や警察などのように、僕たちが日常生活を送るうえで必要な仕組みなんだと思います。

岡本 なるほど、ライフラインの一つとして考える必要があるのかも。「非常時だけに必要な組織」と思いがちだけれど。

赤十字の日常的な活動を
撮影していきたい

—— 岡本さんと菅原さんとの関わりは？

岡本 わたし、もともとムービー（動画）のディレクターや演出をしていたんです。仕事上でも菅原さんとは長い付き合いで、東京観光写真倶楽部には設立当初から参加して、ずっと事務局長を務めてきました。写真についてはアマチュアですが、写真を撮ることで赤十字の活動を広め、それが社会の役に立ったらいいなと思ってます。自分が持っている技術やノウハウを社会に還元できるってうれしいし、奉仕団として日常的に講習会などで研鑽の機会を与えていただき、とてもありがたいですね。

菅原 まずは自身がしっかりと社会にまなざしを向けながら、奉仕団の活動を楽しんで写真を撮ってほしいですね。義務感だけでは続かないから。

赤十字は、災害などアクシデントが起きたときばかり注目されがちだけれど、救急法の講習など、日常的な活動も実はとても重要で、それが災害時の活動と同じ日



菅原さんがバングラデシュで撮影した少年の写真。強いまなざしが印象的だ。他の2枚の写真とあわせて東京都支部1階NT Loungeで展示中。

常にあるということを伝えていきたいですね。

—— 写真奉仕団として、どんな活動を予定していますか？

岡本 派手なことは予定していません（笑）。救急法の講習を自ら受けながらスナップ写真も撮るとか、赤十字が普段やっている活動に参加して、そこで写真を撮っていききたい。まずは赤十字の活動を知りたいですね。NTでもそのうち、「写真奉仕団が行く！」みたいなコーナーができれば面白いかも（笑）。

菅原 東京での活動を見てもらって、いずれは47都道府県に写真奉仕団ができれば面白いですよ。東京以外の支部にも声をかけていきたいと思っています。

岡本 わたしたちにとっては、趣味の写真を通じて社会に何かが還元できるありがたい機会。奉仕団のみんなには、「写真を通して社会のために何かできるかもしれないよ。だから一緒にやってみよう！」と呼びかけたい。

菅原 「赤十字を知る。赤十字を伝える」というところから、写真奉仕団を始めていけたらと思います。

—— ありがとうございます。今後のご活躍を期待しています。

知っていますか？赤十字の社会福祉施設



赤十字子供の家にやってくる子どもたちの事情はさまざま。家庭的な環境を感じてもらえるような生活の場を提供しています。

赤十字が社会福祉施設を運営していること、知っていますか？

東京都支部では、0歳から5歳までの就学前の子どもたちに対し保育を行う「武蔵野赤十字保育園」と、家庭環境上施設養護を必要とする2歳から6歳までの子どもたちに対して保護養育・自立支援を行う「赤十字子供の家」の2つの児童福祉施設を運営しています。

子どもたちの笑顔を守るため、施設ではいろいろな取り組みを行っています。ですが、まだ知名度は高くありません。

今後、NTでは都内の社会福祉施設についても取り上げていきます。誌面を通じて、赤十字の取り組み、そして、子どもたちの様子を感じ取っていただければ幸いです。

誌面へのご意見・ご感想を
お待ちしております！

ハガキ：

〒169-8540

新宿区大久保 1-2-15 NT 編集部あて

メール：

nissekitokyo@tokyo.jrc.or.jp

お寄せいただきましたご意見や感想は、個人が特定できないように配慮したうえで当支部が行う広報活動に活用させていただきます場合があります。(本ページへの掲載等)

(C)

日赤LEDライト

三留和彦 様 (横浜市)

神崎勝 様 (世田谷区)

宮崎佳貞 様 (小金井市)

黛敏子 様 (北区)

横山れい子 様 (世田谷区)

宮内香奈恵 様 (松戸市)

石井比呂美 様 (町田市)

矢口雅江 様 (江東区)

小沼光行 様 (江戸川区)

神尾章弘 様 (小平市)

(B)

脳トレ対戦ゲーム
清少納言

今関麻紀子 様 (世田谷区)

笹谷隆 様 (目黒区)

桑山文子 様 (野田市)

杉森正浩 様 (羽村市)

川西雄一 様 (大田区)

(A)

フロムナード
シルバートリム万年筆

戸田英二 様 (市川市)

前号のプレゼント当選者

NT
NISSEKI TOKYO

Vol.10 2016年7月発行



■発行・編集・デザイン / 日本赤十字社東京都支部

〒169-8540 新宿区大久保 1-2-15

Tel:03-5273-6747 (総務部企画課直通)

※本誌掲載の記事・写真・イラストなどの無断転写(コピー)、複製(転載)を禁じます。

※本誌に掲載されている情報は、発行に伴う情報収集時点での情報を含みます。その後内容に変更が生じる場合もありますので予めご了承ください。

ホームページ：http://www.tokyo.jrc.or.jp/

Facebook：https://www.facebook.com/redcrosstokyo

NTは年4回発行(4月・7月・10月・1月)

日本赤十字社東京都支部にご寄っていただいた方に郵送でお届けしているほか、都内の赤十字病院及び献血ルーム・献血バス等の献血会場でも配布しています。

今号の表紙



5月1日熊本県西原村。道路の陥没などで車が足止めされた時でも、一刻も早く現場へ向かうためバイクで救援物資を運ぶ。写真は宮城県石巻赤十字病院の救護班の一員。

写真：©chiba naobumi (strawberry pictures)

「健康寿命」を延ばすお手伝い

武蔵野赤十字病院

■所在地 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町 1-26-1
 ■連絡先 Tel 0422-32-3111(代表) Fax 0422-32-3525
 ■休診日 土曜、日曜、祝日、5月1日(赤十字創立記念日)、年末年始
 ■病床数 611床(一般528床、ICU8床、HCU22床、CCU6床、SCU9床、NICU6床、GCU12床、感染症20床)

● 早めの受診と治療がポイント

最

近の調査によると、日本人の平均寿命は85歳を超え、世界有数の長寿国家です。しかし、健康で生活していける寿命Ⅱ「健康寿命」は72歳前後と言われ、医療や介護が必要なこの十数年間のあり方が社会的な問題となっています。整形外科の究極の目標は、この「健康寿命」をできるだけ伸ばすことです。

痛みやしびれを感じたら すぐに受診を

整

整形外科が担当する症状・疾病としては、①手足のしびれや痛み・動きにくさをもたらす腰部脊柱管狭窄症や、頸髄症、椎間板ヘルニア、②膝や股関節の痛みによって歩行や生活に支障が出る変形性膝関節症・股関節症、③肩の痛みや動きの悪さの原因となる腱板断裂や肩関節症、④ケガにより生じる骨折や脱臼——などがあります。つまり、体の痛みや機能低下のために生活に支障をもたらす、すべての疾患を扱っているのが整形外科なのです。

適切な時期にきちんと治療を行えば、生活の質を保つことは十分可能です。場合によっては手術を

することにもなりますが、体の機能が全くなくなってからでは、回復を期待することは困難です。早めの受診と早期治療が何より大切です。

地域の医療機関とも連携

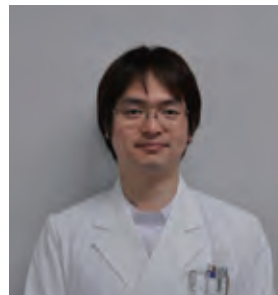
当

科は、常勤医10名と後期研修医1名の体制で、外来・入院診療および手術を行っています。手術はほぼ毎日行われていて、年間の手術件数は1400件を超えます。診察の結果、保存治療(薬による治療やリハビリなど)を実施することになった患者さんについては、地域の医療機関を紹介して治療やリハビリを続けていただいています。もちろん、紹介先の医療機関とは常に密接な連携をとっているのがご安心を！

痛みやしびれなどによって生活に支障が出ていると感じたら、かかりつけの先生からご紹介いただき、当科を受診していただくことをお勧めします。



毎日の早朝ミーティングで一日がスタート



原 慶宏
Nobuhiro Hara
整形外科 副部長

日本整形外科学会専門医
 日本整形外科学会脊椎脊髄医
 日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医

かけがえのない健康のために

大森赤十字病院

●人間ドックでセルフチェックを

- 所在地 〒143-8527 東京都大田区中央 4-30-1
- 連絡先 Tel 03-3775-3111(代表) Fax 03-3776-0004
- 休診日 土曜、日曜、祝日、年末年始(急患は随時)
- 病床数 344 床(一般 326 床、ICU・CCU 6 床、HCU 12 床)

大 森赤十字病院の人間ドックは、1960(昭和35)年に「短期人間ドック」として、わずか2床のベッドから始まりました。日本ではようやくカラーテレビの本放送が始まったこの年、当院の人間ドック利用者は111人でした。そのほとんどが40〜44歳の男性だったそうです。

人間ドックは「予防医学」です

現 在では、さまざまな検査を老若男女の誰もが受けられるようになりました。人間ドックと健康診断の最も大きな違いは、検査項目の数にあります。最低限の健康状態を調べたい時には、学生さんや会社勤めの方が学校や職場で定期的に受けている健康診断を、より詳細に健康状態を調べたい場合は人間ドックを選ぶといいでしょう。

人間ドックは「予防医学」の一つで、国民の三大疾病である「がん・心臓病・脳卒中」を中心に、早期発見・早期治療・生活指導を行うことを目的としています。

近年注目を集める脳ドック

当 院の人間ドックは、内視鏡の検査や腹部超音波検査が含まれた基本的なコースに加え、選択検査として動脈硬化の程度を調べる血圧脈波検査や各種がん検査など、幅広い検査体制を整えています。

近年、脳ドックが注目を集めており、当院でも脳の断面像を撮影するMRIや血管の状態を立体映像として撮影するMRAといったMR検査を行っています。検査の結果は、脳を専門とする医師だけでなく放射線医師も加わり、総合的に判断しています。

定期的な人間ドックの受診を

健 康は、誰にとってもかけがえのないもの。長い人生を健康に、そして心豊かに過ごすためには、日頃の健康への心がけや健康管理が欠かせません。皆さんの健康づくりのために、定期的な人間ドックの受診をお勧めします。



人間ドック問診中の北里部長（糖尿病・内分泌内科）



当院のMRI（X線を使わず磁場と電波で体の中を見る画像診断装置）

夏の感染症に注意を！

葛飾赤十字産院

■所在地 〒124-0012 東京都葛飾区立石 5-11-12
■連絡先 Tel 03-3693-5211(代表) Fax 03-3694-8725
■休診日 日曜、祝日、年末年始
■病床数 113床(産婦人科68床、NICU・GCU等45床)

● 手指を清潔に保って予防しましょう

夏

になると、手足口病、ヘルパンギーナ、プール熱などの感染症が増えてきます。乳幼児だけでなく大人が感染することもある。それぞれの病気の特徴や原因を知って、予防につなげましょう。

咳やくしゃみで感染

手

足口病は、咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことで感染します。ウイルスが付着した飲食物を摂ることで感染することもある。感染すると口の中や舌、手に水泡ができます。熱は38℃以下がほとんどで、重症化することはあまりありません。

「夏かぜ」の代表的なものがヘルパンギーナ。感染経路は手足口病と同様。突然高熱が出て、上あごに水泡や潰瘍ができます。

7月に流行のピークを迎えるのが「プール熱」。正式名称は咽頭結膜熱。目や口からウイルスが侵入し、高熱やのどの痛み、目の充血などを引き起こします。嘔吐や下痢を伴うことも。流行は4月末から9月末まで続き、5歳以下の小児がかかりやすいのが特徴です。プールで感染することが多いものの、普段の生活でも感染する

ので注意が必要です。

おむつ交換時には十分な手洗いを

手

や口は人間にとって便利な道具ですが、同時に、ウイルスなどにとっても、広がっていくための便利な手段となります。これから夏の感染症は、回復後も約1か月は便にウイルスが排出されるため、排泄後やおむつ交換時には十分に手を洗うなど、清潔を保つことが重要です。

予防としては、石けんと流水による手洗いや速乾性アルコール消毒薬による手指消毒などの手指衛生。他の人にうつさないためにも、咳やくしゃみの症状があればしっかりとマスクを着用する事も忘れずに。これらを日頃から徹底することが大切です。



小林 丈人 Taketo Kobayashi
薬剤師

妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師
小児薬物療法認定薬剤師

(表) 夏に注意が必要な感染症

疾患名	原因となるウイルス	主な症状	潜伏期間
手足口病	コクサッキーウイルス、 エンテロウイルスなど	舌や口、手足に水泡、発熱	3～6日
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルス、 まれにエコーウイルス	突然の高熱、上あごに水泡や潰瘍	2～7日
プール熱	アデノウイルス	高熱、のどの痛み、目の充血、 嘔吐、下痢	3～5日

Blood Program

NEWS

伝えたい、献血の大切さ。

青山学院大学応援団の献血推進活動



大橋 義史
Yoshifumi Ohashi
青山大学応援団 団長

私 たちの協力は、応援団の資本である『声』を生かしてというもの。「大学生になったら一度は献血に行ってみませんか?」「青学で献血できるチャンス!」「私も献血が最初は怖かったけれど、今では趣味になりました」などと献血バスの前に立って呼びかけています。最初は恥ずかしかったけれど、声を出す練習にもなり、応援団の活動にも生かされています。

「声」を生かして協力

7月7日に「第52回献血運動推進全国大会」が明治神宮会館で開かれます。1962（昭和37）年から大学献血を実施する際に協力を呼びかけてくださっている青山学院大学応援団に今回、東京都知事感謝状が授与されることとなりました。現団長の大橋義史さんは「先輩方が積み重ねてきた歴史を踏襲した結果、頂くことができ大変光栄です」と語ります。

私 が初めて献血にチャレンジしたのは10代の時でしたが、血を見るのが怖くて気持ち悪くなっていました。2回目もダメで3回目ようやく献血できました。応援団に入ってから、みんなも献血に行けばいいのにと思うようになり、ふだんから周囲に献血を勧めています。今は献血が趣味ですね。「人のために」というより、「楽しいから献血に行く」という感じです。

今では趣味です



箱根駅伝大会2連覇の祝勝会で（中：大橋団長）

「献血運動推進全国大会」の歴史



その歴史は古く、1965（昭和40）年の東京大会（第1回大会）から毎年各都道府県で順次開催され、52回目を迎える今年（2017年）は東京都で開催。東京都での開催は第20回大会（1984年）に続き3回目の開催となります。

「献血することで貢献できたんだな」という実感が湧き、もっと献血推進活動を頑張ろうと思いました。

献血するのは「怖そう」「痛そう」などという印象を持つ人も多いかもしれませんが、「案外、痛くないよ」と伝えたい。「自分とは関係ない」と思っている人も、軽い気持ちで構わないので、一度献血に協力してみてほしいです。



未来が見えない 難民たちの 不安を感じた

ーギリシャでのシリア難民医療支援活動ー

中東・シリアで続く内戦のため、ヨーロッパへ流入する難民が後を絶ちません。欧州各国が難民の入国制限を始め、通過点となっているギリシャで難民が滞留していることから、ギリシャ政府の要請を受けて国際赤十字は医療・保健スタッフを派遣。葛飾赤十字産院助産師の平井香名さんも、この一員として3月19日から約1か月間、妊婦健診や診療介助などの活動に取り組みました。平井助産師はこれまで、2011年ウガンダでの母子保健事業、2015年にはミャンマー・カチン州での医療支援



事業に従事した経験があります。4月22日、日赤本社において開かれた報告会で平井助産師は、難民キャンプではシャワーが足りず衛生状態が保てないことから、風邪などの感染症が発生していると現状を報告。また、難民の多くが、先が見えないことへの不安を抱えており、精神的なサポートが必要になっていると語りました。日赤は引き続き現地にスタッフを派遣しており、6月13日からは名古屋第二赤十字病院の久田敦史^{ひさだあつし}医師と、高知赤十字病院の丁野美智^{ちののみのみち}看護師が派遣されています。

赤十字国際ニュースのメールマガジンに登録しませんか？定期的にニュースがお手元に届きます。登録・閲覧はこちら

赤十字国際ニュース（まぐまぐ!）▶▶▶



平井 香名 Kana Hirai

助産師・看護師

2005年から葛飾赤十字産院勤務

国内災害では2011年4月東日本大震災発生時に石巻赤十字病院へ産科病棟支援要員として派遣された。

5月8日は赤十字創始者、
アンリー・デュナン氏の誕生日!!
世界赤十字デーとして知られる
その日、東京の表参道でも何か
が起きていた...?!

行け! OLポスター★日赤とげきレポ

～5月8日世界赤十字デー in 表参道♡～

学生ボランティアによる
熊本への募金活動!



新緑に映える...
日本赤十字社フラッグ!



ハートちゃん
ミルクパリン♡
in 京橋千足屋



東急プラザ

キティランド

ラフォーレ原宿

京橋千足屋



ライトアップ!

おもしろ森どり
トークセッション +
ショートフィルム上映会!



スーパースター・ミョウラ・山本尚貴さん



ショートショート
フィルムフェスティバル & アナ
フェスティバル 特別サ
東野 正樹さん



150年以上たった今でも、
アンリーさんの「救いたい!」という思いは、
こやて 世界中に 受けつがれて
いるんだね!!

たのしかった♡
END

P resent

今号のプレゼントをご紹介します。

日本赤十字社東京都支部への協賛企業によりご提供いただいています。※みなさまからのご応募、お待ちしております！※A,Bのプレゼントのみ

A.



20g, シェーカー付

5名様

ピュアシナジー（植物性サプリメント）

●株式会社シナジーカンパニージャパン

オーガニック※や野生の厳選された 52 種類の植物を、日本人の体質にあわせて黄金比でブレンドした、スーパーフードパウダー。豊かな栄養素で満たすことで、その人が本来持っている“健康になる力”を引き出します。※米国 Oregon Tilth などによる認証

B.



PET 600ml 24本入

5名様

アサヒ おいしい水プラス「カルピス」の乳酸菌

●アサヒ飲料株式会社

透明なのに「カルピス」の乳酸菌が入っていて、水よりもゴクゴク飲める新しい健康水。朝いちばんに「天然水」と「乳酸菌」をとり入れる新習慣のご提案です。7月26日新発売！

プレゼント応募方法

①氏名 ②郵便番号 ③住所 ④年齢 ⑤連絡先 ⑥本誌入手場所 ⑦本誌の感想（100 文字程度）⑧希望するプレゼント番号 を明記し、はがきまたはメールで下記までご応募ください。抽選でプレゼントが当たります！ 締切は 2016 年 8 月 31 日。当選者は次号誌面上で発表します。

はがき ▶ 〒169-8540
東京都新宿区大久保 1-2-15 NT 編集部あて

メール ▶ nissekitokyo@tokyo.jrc.or.jp

※いただいた個人情報はプレゼントの発送および当支部からのご連絡のみに使用します。
※お寄せいただきましたご意見・ご感想は個人が特定できないよう配慮したうえで当支部が行う広報に活用させていただく場合があります。

C.



10名様

日赤LEDライト

いざというときの防災に役立つ LED ライト。手回しとソーラーパネルでの蓄電、2 パターンの使用が可能です。

協賛品募集中！お問い合わせはこちらまで▶ nissekitokyo@tokyo.jrc.or.jp

赤十字は、 ジミチです。

「赤十字の活動は広すぎてわかりづらい。」
と言われることがあります。

赤十字の活動は、国や状況、理由、活動の種類を
限定しません。対象は全世界の苦しむ人々です。

確かに、エリアや対象となる人々を限定して緊急性
を訴えるほうが社会の目に届きやすく、理解され
やすいかもしれません。

しかし、赤十字は世界最大の人道機関。

その組織力があるからこそできることがあります。

緊急時の支援は当然のこと、すべての脅威から
人々を守るために全世界で活動しています。

もちろん、国内でも医療や献血、そして大災害に
対する取り組みなど、皆さまの身近なところで
活動しています。

命を守るために必要であれば、スポットライトが
当たることのないジミチな活動も大切にする。

これが赤十字のジミチです。

—— 皆さまからお寄せいただく活動資金は身近なところでも活用されています。 ——

例えば、

オリジナル教材を活用した防災教育を普及しています。

日本国内各地で大きな被害をもたらす自然災害が頻発しているという事実から
目を背けることが出来ない昨今の状況において、一人でも多くの命を救うために
必要なことは何か。その答えの一つが「教育」です。「災害時取るべき行動など
を事前に知っていれば自分を守り、周りの人を助けられる」。そのことは数々の過
去に起きた災害の教訓としても語られていますが、課題はそれをいかに広範囲に
拡散させるかという点。セミナーなどを開催して拡散に務めていますが、マンパ
ワーにも限界がある。そこで青少年赤十字では、学校の教員が学校教育の中で防
災教育を行うことができるよう、教員の目線で考案された教材を開発して学校に
無償配布※しています。災害時に子どもたちが自らの命を守り、そして周りの人
を助けることができるように。コツコツが積み重なって大きな力となる。そんな
取り組みをジミチに続けていきます。

※ 平成 27 年度に東京都内の小・中・高等学校に配布しました。



一冊で小学校低学年から高校生までの内容を
カバー。付属のDVD教材により映像や各種
データを駆使した教育が可能です。

まもるいのち



ジミチな活動が、必ず命を守ることにつながる。この思いを大切にしています。

活動資金協力者（社）・団体のご紹介

皆様のご協力により日本赤十字社の活動は支えられています。
活動資金のご協力、誠にありがとうございました。

※10万円以上のご寄付をいただき、掲載をご了解いただいた個人、法人および団体等を掲載しています。

活動資金協力に関するお問合せは
東京都支部 振興課 03-5273-6743 まで

●千代田区	
サンフロンティア不動産(株)	131 万円
(株)朝日写真ニュース社	30 万円
(株)ヴィヴィドライフ	25 万 500 円
(株)シナジーカンパニージャパン	17 万 9600 円
日本エンゼル(株)	15 万 1035 円
(株)ケアネット	11 万 4933 円
(株)インフォーム	10 万円
●中央区	
大地 カウ	10 万円
浜田 寛子	10 万円
(株)フィルタサービス	100 万円
サンリノベ(株)	10 万円
(一財)寧波旅日同郷会	10 万円
●港区	
中江 宏	70 万円
笹島 竜夫	10 万円
イーパートナーズ(株)	30 万円
(一財)世界聖典普及協会	30 万円
(有)すばる介護センター	10 万円
(宗)泉岳寺	10 万円
ミツワシステムズ(株)	10 万円
●新宿区	
横村 武宣	100 万円
磯村 和英	10 万円
(一社)在日黒龍江省同郷会	115 万 6943 円
東京キングライオンズクラブ	10 万円
(株)ホンダ二輪 新宿	10 万円
●文京区	
竹早教員保育士養成所	60 万円
(株)ティー・シー・エス	10 万円
●台東区	
六笠 清	20 万円
寺井 國雄	10 万円
野口 香代子	10 万円
石福ジュエリーパーツ(株)	100 万円
エス・イー・シーエレベーター(株)	10 万円
玉姫稲荷神社 こんこん靴市実行委員会	10 万円
●墨田区	
木塚 靖夫	20 万円
●江東区	
坂元 左	10 万円
藤村 小弥太	10 万円
木塚(株)	10 万円
●品川区	
金森 利幸	10 万円
菅野 鴻三	10 万円
●目黒区	
日野 儀光	200 万円
長田 信夫	50 万円
(株)昭和イーティング	30 万円
(株)システムサイト	10 万円
●大田区	
橋本 養三	80 万円
紺野 博	30 万円
尾曾 利夫	10 万円

白井 芳子	10 万円
蓮光院	100 万円
嵯峨電機工業(株)	30 万円
(有)岸田ビル	10 万円
(株)フォレストサイド	10 万円
●世田谷区	
五来 百合子	600 万円
小嶋 淑子	200 万円
五来 純	100 万円
小林 賢治	50 万円
加賀美 彰	20 万円
小嶋 召子	10 万円
原島 富美男	10 万円
三栄製菓(株)	50 万円
●渋谷区	
(株)メタボリック	300 万円
(宗)世界平和統一家庭連合	55 万 3418 円
●中野区	
戸原 章子	15 万円
●杉並区	
金澤 昭子	40 万円
金森 満寿枝	20 万円
本橋 忠藏	20 万円
石井 明	10 万円
全国交通運輸産業労働者共済生活協同組合	30 万円
石井薬品(株)	10 万円
●豊島区	
芹川 晴彦	160 万円
佐伯 弘子	20 万円
(株)USTRUST	50 万円
メルスモン製菓(株)	10 万円
●北区	
金子 二四男	10 万円
●荒川区	
匿名	100 万円
匿名	50 万円
●板橋区	
瀬戸川 睦人	100 万円
(有)エヌティ・エイト	10 万円
(株)曠亭開発	10 万円
●練馬区	
水島 磐男	40 万円
兼山 多満子	10 万円
高原 正雄	10 万円
(株)エステート・ポート	50 万円
金子建材(株)	10 万円
●足立区	
小倉 伸一	50 万円
梶 千草	30 万円
清水 延晏	10 万円
●葛飾区	
小倉 茂	15 万円
石川 良夫	10 万円
月村 泰之	10 万円
吉田 和代	10 万円
(株)稲葉製作所	10 万円

(株)ダイシン	10 万円
●江戸川区	
吉野 茂男	30 万円
嶋田 慶三	20 万円
東京デザインハウス(株)	50 万円
(宗)永福寺	10 万円
(有)明和ビルサービス	10 万円
●八王子市	
高津戸 道夫	20 万円
小松歯科医院	10 万円
●立川市	
金子 利津子	10 万円
●武蔵野市	
山崎 喜哲	10 万円
●三鷹市	
田中 宏子	50 万円
佐藤 多満代	10 万円
(株)サンセイエンジニアリング	1000 万円
志賀興業(株)	40 万円
●青梅市	
浜中 教孝	20 万円
●府中市	
田代 郁子	20 万円
高橋 勇	10 万円
●昭島市	
小山 善治	15 万円
三浦 寛子	10 万円
●調布市	
魚返 美智代	100 万円
●町田市	
近藤 徳彌	100 万円
武川 節	100 万円
●小金井市	
鈴木 富雄	10 万円
●小平市	
相互商事(株)	50 万円
アサ電子工業(株)	10 万円
●東村山市	
中村 豊一	50 万円
●国分寺市	
国分寺市民防災推進委員会	10 万円
●西東京市	
林 雅弘	500 万円
奥山建設(株)	10 万円
●福生市	
大熊 信博	10 万円
●狛江市	
(株)アルテックス	10 万円
●東大和市	
(株)双蹊	10 万円
●清瀬市	
コーヒーハウスるぼ	10 万円
●千葉県	
(株)ドリームワン	10 万円

雨上がりの神楽坂。大通りを一本入ると、細い石畳の道に、黒塀の料亭や旅館、急に現われる階段などがあって、風情ある街並みを感じることができる。



+ 東京観光写真倶楽部 TOKYO SIGHTSEEING PHOTO CLUB

写真とはまさに「光を観ること」。東京を＜観光＞しながら撮影を楽しむことを目的とし、2005年に発足した同倶楽部は、東京諸島を含む都内各地で撮影会を開催している。部長を務めるのは、日本赤十字社専属カメラマンである菅原一剛氏。東京の写真を撮り続けている同倶楽部とコラボレーションした連載が、Rediscovery TOKYOです。

菅原一剛 HP <http://ichigosugawara.com> 東京観光写真倶楽部 <http://tokyophoto.ne.jp>



第3回 新宿区・神楽坂

東西線の神楽坂駅とJR飯田橋駅に挟まれるようにある神楽坂通り周辺は、江戸時代からの面影が今も街並みに残る。昔は花街として栄えたこの場所は、食事処が多いこともあり夜のイメージが強い。この日は直前で雨が止んだばかりで、一歩路地に入ると石畳や軒先に咲く紫陽花が雨で濡れていてとてもきれいだった。初めて訪れた昼の神楽坂。新しい街の一面を覗くことができた。





わたしの一步

ONE STEP

Vol.
01

は た な か り ほ
畑中 理歩

Profile ● Riho Hatanaka

東京家政大学2年生。将来は栄養士になることが目標。学生赤十字奉仕団では、献血の呼びかけ、老人ホーム訪問などの活動を行っている。

熊本にいる兄が、わたしに自信をくれました。

5月 8日の世界赤十字デーに、表参道の街頭で熊本地震災害への募金活動に参加しました。

熊本の大学に通っている兄は、今回の地震でアパートの水道管や壁が壊れ、住めなくなってしまいました。お風呂にも入れず、大学の体育館に2週間くらい寝泊まりしていたそうです。

地震直後は連絡がとれず、やっと電話がつながって無事が確認できたとき、ストレートに「わたしには何が？」と聞いてみました。兄や熊本に住んでい

る人たちのために、何をしたいのかわからなかったから。

兄からは、「大きなことはやろうとしなくていいよ。大学の授業もあるんだし、熊本に来て何かすることは無理だろうから。今いる東京で、募金募集に協力したり熊本のものを買ったり、小さなことでも協力してくれたら助かる」と言われました。

そんなとき、所属していた学生赤十字奉仕団から募金活動の話があり、迷うことなく募金活動への参加を決めました。

自分が大きな声で呼びかけたことで募

金をしてくれる人がいる。それにとってもやりがいを感じたし、うれしくなりました。募金をしてくれたうえに、「頑張って」「ありがとう」と言ってくれる方もいました。

この募金が兄をはじめとする被災したみなさんのもとに届くと思うと、わたしも確実に役に立っているんだなと思えます。「何かできることはあるのかな？」と弱気になっていたわたしに、「小さなことでもいいんだよ」と自信をくれた兄。「募金活動やってきたよ!」と、真っ先に報告したいと思います。



日本赤十字社 東京都支部
Japanese Red Cross Society

〒169-8540 東京都新宿区大久保1丁目2番15号
TEL 03-5273-6741 (代表) FAX 03-5273-6749 <http://www.tokyo.jrc.or.jp>